

東京スポーツ&整形外科クリニック  
院長 菅谷 啓之 (スガヤ ヒロユキ)

著書・論文リスト

<著書>

(編者)

1. 菅谷啓之, 能勢康史 (編集) 野球の医学～競技現場のニーズに応じた知識と技術. 初版, 文光堂, 東京 2016.
2. Bain, Itoi, Di Giacomo, and Sugaya (eds). Normal and Pathological Anatomy of the Shoulder. 1st edition, Springer, Berlin, Germany, 2015.
3. Itoi, Arce, Bain, Diercks, Guttman, Imhoff, Mazzocca, Sugaya, and Yoo (eds), Shoulder Stiffness: Current Concepts and Concerns. 1st edition, Springer, Berlin, Germany 2015.
4. 菅谷啓之編. 肩関節外科手術テクニック (初版). メディカ出版, 大阪 2014.
5. 菅谷啓之編. 鏡視下バンカート法のABC (第1版). 金原出版, 東京 2010.
6. 菅谷啓之編. 実践 肩のこり・痛みの診かた治しかた (第1版). 全日本病院出版会, 東京, 2008.

(著者)

1. 菅谷啓之. II 肩関節疾患を理解する 3 肩関節不安定症. 村木孝行 (監修), 甲斐義浩 (編集), 肩関節 理学療法マネジメント. 初版, メジカルビュー, 東京, 2019 : 62-73.
2. 菅谷啓之. 8章 サッカー選手の外傷・障害 肩関節. 公益財団法人日本サッカー協会 医学委員会 (編集), コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト. 第2版, 金原出版, 東京, 2019 : 135-144.
3. 菅谷啓之. I. 肩関節・肘関節障害とそのリハビリテーション. 1. 投球障害肩の発症メカニズムと臨床診断. 福林 徹, 武富修治 (編集), アスレチックリハビリテーションガイド第2版, 文光堂, 東京, 2018 : 22-25.
4. 鈴木智, 菅谷啓之. I. 肩関節・肘関節障害とそのリハビリテーション. 2. 投球障害肩のリハビリテーション. 福林 徹, 武富修治 (編集), アスレチックリハビリテーションガイド第2版, 文光堂, 東京, 2018 : 26-35.
5. Matsuki K, Sugaya H. Section I. Shoulder Instability, Rehabilitation, and Return to Sport. 1-1J. Arthroscopic Repair of Osseous Bankart Lesions. Arciero, Cordasco, Provencher (eds). Shoulder and Elbow Injuries in Athletes. Elsevier, Philadelphia, USA 2018: 65-70.
6. 星加昭太, 菅谷啓之. IX 運動器疾患 8 凍結肩 (肩関節周囲炎). 門脇孝, 小室一成, 宮地良樹 (監修). 日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2018-2019. 第1版, メディカルレビュー社, 大阪, 2018 : 580-583.

7. 大西和友, 菅谷啓之. 肩関節, 上腕. 櫻庭景植 (編) スポーツ診療ビジュアルブック 初版メディカルサイエンスインターナショナル, 東京, 2016 : 1-50.
8. 大西和友, 菅谷啓之. レクチャー 最近の鏡視下腱板修復術. 金谷文則 (編) 臨床整形外科51 医学書院, 東京, 2016 : 939-46.
9. Matsuki K, Sugaya H. 7. Instability. In Tamai, Itoi, Takagishi (eds). *Advances in Shoulder Surgery*. 1st edition, Springer Japan, Tokyo, 2016: 105-127.
10. 仲島佑紀, 菅谷啓之. V 身体機能の改善と動作への介入 3) 内側支持機構不全への肩甲胸郭関節機能の改善. 山崎哲也, 柏口新二, 能勢康史 (編集企画). 肘実践講座 よくわかる野球肘 肘の内側部障害—病態と対応—. 第1版 全日本病院出版会, 東京, 2016 : 322-333.
11. 菅谷啓之. IX 運動器疾患, 6 凍結肩 (肩関節周囲炎). 日常診療に活かす診療ガイドラインUP-TO-DATE 2016-2017. 第1版, メディカルレビュー, 大阪, 2016 : 552-555.
12. Sugaya H. Chapter 16 Arthroscopic Anterior Glenoid Bone Block Stabilization. Ryu, Angelo, Abrams (eds). *The Shoulder: AANA Advanced Arthroscopic Surgical Techniques*. 1st edition, SLACK Books, Thorofare, NJ, USA, 2015.
13. 菅谷啓之. II 肘関節疾患の治療. 肘関節拘縮 : 鏡視下法. 今谷潤也 (編集), 肘関節手術のすべて. 初版, メジカルビュー, 東京, 2015 : 302-311.
14. Sugaya H. 21 Multidirectional Instability and Loose Shoulder in Athletes. Jin-Young Park (eds) *Sports Injuries to the Shoulder and Elbow*. 1st edition, Springer, Berlin, Germany 2015: 237-250.
15. Nimura A, Akita K, Sugaya H. Part V Musculo-Tendinous Structures. 20 Rotator Cuff. In Bain, Itoi, Di Giacomo, and Sugaya (eds). *Normal and Pathological Anatomy of the Shoulder*. 1st edition, Springer, Berlin, Germany, 2015: 199-205.
16. Nimura A, Akita K, Sugaya H. Part VI Neurovascular Structures. 31 Brachial Plexus. In Bain, Itoi, Di Giacomo, and Sugaya (eds). *Normal and Pathological Anatomy of the Shoulder*. 1st edition, Springer, Berlin, Germany, 2015: 309-313.
17. 菅谷啓之. IV 投球障害の病態と治療方針. 投球障害の全体像. 菅谷啓之, 能勢康史 (編集) 野球の医学～競技現場のニーズに応じた知識と技術. 初版, 文光堂, 東京 2015 : 114-119.
18. 高橋憲正, 菅谷啓之. IV 投球障害の病態と治療方針. 投球障害肩. 菅谷啓之, 能勢康史 (編集) 野球の医学～競技現場のニーズに応じた知識と技術. 初版, 文光堂, 東京 2015 : 129-138
19. 大西和友, 菅谷啓之. IV 投球障害の病態と治療方針. 成人期後方・外側部障害. 菅谷啓之, 能勢康史 (編集) 野球の医学～競技現場のニーズに応じた知識と技術. 初版, 文光堂, 東京 2015 : 167-172

20. 渡海守人, 高橋憲正, 菅谷啓之. V 投球障害以外の病態と治療方針. 野球選手の投球側の脱臼と不安定症. 菅谷啓之, 能勢康史 (編集) 野球の医学～競技現場のニーズに応じた知識と技術. 初版, 文光堂, 東京 2015 : 201-206.
21. 高橋憲正, 澤野靖之, 菅谷啓之. III. 各疾患に対する理学療法. 2. 反復性肩関節脱臼－術後例. 臨床スポーツ医学編集委員会 (編集) スポーツ外傷・障害の理学診断理学療法ガイド. 第2版, 文光堂, 東京 2015 : 208-214.
22. 渡海守人, 高橋憲正, 菅谷啓之. IV 部位別-こどものスポーツ傷害の治療と予防. 4. 肩関節の成長期スポーツ傷害. 田中康仁, 笠次良爾 (編集) こどものスポーツ外来. 初版, 全日本病院出版会, 東京 2015: 130-140.
23. Sugaya H. Part IV Examinations, 14. Imaging of Stiff Shoulders. In Itoi, Arce, Bain, Diercks, Guttman, Imhoff, Mazzocca, Sugaya, and Yoo (eds), *Shoulder Stiffness: Current Concepts and Concerns*. 1st edition, Springer, Berlin, Germany 2015: 159-167.
24. 菅谷啓之. 上肢・肩関節：肩関節鏡のアプローチ. 井樋栄二, 野原裕, 松末吉隆 (編集) 整形外科サージカルアプローチ：体位から到達術野まで. 初版, メジカルビュー, 東京 2014 : 50-60.
25. 菅谷啓之. 第1章 反復性肩関節脱臼に対する手術治療：反復性肩関節脱臼に対する手術治療総論. 菅谷啓之 (編集) 肩関節外科手術テクニック. 初版, メディカ出版, 大阪 2014 : 2-4.
26. 高橋憲正, 菅谷啓之. 第1章 反復性肩関節脱臼に対する手術治療：反復性肩関節脱臼に対する基本手技としての鏡視下 Bankart 法. 菅谷啓之 (編集) 肩関節外科手術テクニック. 初版, メディカ出版, 大阪 2014 : 5-15.
27. 河合伸昭, 菅谷啓之. 第1章 反復性肩関節脱臼に対する手術治療：反復性肩関節脱臼に対する補強措置としての腱板疎部縫合および Hill-Sachs Remplissage. 菅谷啓之 (編集) 肩関節外科手術テクニック. 初版, メディカ出版, 大阪 2014 : 16-26.
28. 菅谷啓之. 第1章 反復性肩関節脱臼に対する手術治療：反復性肩関節脱臼高度骨欠損例に対する骨移植術. 菅谷啓之 (編集) 肩関節外科手術テクニック. 初版, メディカ出版, 大阪 2014 : 63-73.
29. 菅谷啓之. 第2章 腱板断裂に対する手術治療：一次修復不能な腱板広範囲断裂に対する大腿筋膜を用いた鏡視下パッチ法. 菅谷啓之 (編集) 肩関節外科手術テクニック. 初版, メディカ出版, 大阪 2014 : 109-117.
30. 菅谷啓之. 20 ゴルフ・ドクター編. 林光俊 (編集主幹). ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の治療. 改訂第2版, 南江堂, 東京 2014 : 388-394.
31. Sugaya H. Complex and Revision Procedures in Shoulder Arthroscopy - Arthroscopic Treatment of Bony Bankart Lesions. In Giuseppe Milano, Andrea Grasso (eds), *Shoulder Arthroscopy: Principle & practice*. Springer, Berlin, Germany, 2014: 419-427.

32. 河合伸昭, 菅谷啓之. 第3章 画像診断. §2 肩関節 (鎖骨含む)・上腕. 1. 外傷性肩関節前方不安定症. 帖佐悦男 (編集) スポーツ傷害の画像診断. 初版, 羊土社, 東京 2013 : 85-88.
33. 河合伸昭, 菅谷啓之. 第3章 画像診断. §2 肩関節 (鎖骨含む)・上腕. 2. SLAP 病変, 腱板関節面断裂. 帖佐悦男 (編集) スポーツ傷害の画像診断. 初版, 羊土社, 東京 2013 : 85-88.
34. 河合伸昭, 菅谷啓之. 第3章 画像診断. §2 肩関節 (鎖骨含む)・上腕. 3. リトルリーグショルダー. 帖佐悦男 (編集) スポーツ傷害の画像診断. 初版, 羊土社, 東京 2013 : 85-88.
35. 河合伸昭, 菅谷啓之. 第3章 画像診断. §2 肩関節 (鎖骨含む)・上腕. 4. ガングリオンによる肩甲上神経麻痺. 帖佐悦男 (編集) スポーツ傷害の画像診断. 初版, 羊土社, 東京 2013 : 85-88.
36. 河合伸昭, 菅谷啓之. 第3章 画像診断. §2 肩関節 (鎖骨含む)・上腕. Q&A : 16 歳男性, ラグビー. 帖佐悦男 (編集) スポーツ傷害の画像診断. 初版, 羊土社, 東京 2013 : 85-88.
37. 河合伸昭, 菅谷啓之. 第3章 画像診断. §2 肩関節 (鎖骨含む)・上腕. Q&A : 21 歳男性, 大学硬式野球部. 帖佐悦男 (編集) スポーツ傷害の画像診断. 初版, 羊土社, 東京 2013 : 85-88.
38. Sugaya H. 13. Anatomy, Pathogenesis, Natural History, and Nonsurgical Treatment of Rotator Cuff Disorders. *Orthopaedic Knowledge Update: Shoulder and Elbow 4*. AAOS Publication 2013: 165-176.
39. 菅谷啓之. III. 部位別のガイドライン ○肩・上腕の疾患 動揺性肩関節の診断・治療指針. 中村耕三 (編集), 運動器診療 最新ガイドライン, 第1版, 総合医学社, 東京, 2012 : 383-385.
40. Sugaya H. Section 2 Anterior Instability: Chapter 15 Arthroscopic Treatment of Glenoid Bone Loss -Surgical Technique. Provencher & Romeo eds., *Shoulder Instability A Comprehensive Approach*, Elsevier, Philadelphia, USA 2011: 186-196.
41. 菅谷啓之. 3. 頸部痛・上肢のしびれ・肩痛・肩こりをきたす主な疾患の診断と治療 : 投球障害肩 (いわゆる野球肩). 中村耕三 (総編集), 加藤博之・川口善治 (専門編集), 整形外科臨床パサージュ 10. 肩こり・頸部痛クリニカルプラクティス. 初版, 中山書店, 東京 2011 : 211-217.
42. 菅谷啓之. 8章 サッカー選手の外傷・障害 肩関節. 財団法人日本サッカー協会スポーツ医学委員会 (編集), コーチとプレーヤーのためのサッカー医学テキスト. 第1版, 金原出版, 東京 2011 : 133-142.
43. 高橋憲正, 菅谷啓之. IV 手術の基本 2. 関節鏡手術のセッティング. 金谷文則 (編集) *Knack&Pitfalls 肘関節外科の要点と盲点*. 第1版, 文光堂, 東京 2011 ; 102-106.

44. 菅谷啓之. VII 変形性関節症 [応用編] 1. 鏡視下手術. 金谷文則 (編集), Knack&Pitfalls 肘関節外科の要点と盲点. 第1版, 文光堂, 東京 2011; 259-261.
45. 菅谷啓之. ラグビー・アメリカンフットボール: ラグビー・アメリカンフットボールにおける外傷性肩関節脱臼の診断と治療. 宗田大 (編集), 復帰をめざすスポーツ整形外科. 第1版, メジカルビュー, 東京 2011; 460-463.
46. 菅谷啓之. I 進入法 肩関節への関節鏡アプローチ. 戸山芳昭 (総編集), 井樋栄二 (専門編集) 整形外科手術イラストレイテッド 肩関節の手術. 第1版, 中山書店, 東京 2011; 31-40.
47. 土屋明弘, 菅谷啓之. III. リハビリテーションとリコンディショニングに要する検査・測定と評価 2. 各種検査・測定の目的と意義①関節動揺性・不安定性テスト, 炎症兆候の確認, 疼痛誘発・再現テスト. 小林寛和 (編集), アスリートのリハビリテーションとリコンディショニング. 上巻 外傷学総論/検査・測定と評価 (第1版). 文光堂, 東京, 2010; 70-85.
48. 菅谷啓之. V. Bankart 病変に対する鏡視下手術 3. 私のアプローチ. 菅谷啓之 (編集), 実践 反復性肩関節脱臼 鏡視下バンカート法の ABC (第1版). 金原出版, 東京 2010; 100-106.
49. 菅谷啓之. VIII. 高度な骨欠損に対する対応ー鏡視下自家腸骨ブロック移植術. 菅谷啓之 (編集), 実践 反復性肩関節脱臼 鏡視下バンカート法の ABC (第1版). 金原出版, 東京, 2010; 141-148.
50. Sugaya H. Chapter 14. Instability with Bone Loss. In Angelo, Esch, and Ryu eds., AANA Advanced Arthroscopy: The Shoulder. Elsevier, Philadelphia, USA, 2010: 136-146.
51. 菅谷啓之. VI 肩関節鏡視下手術とそのスキル 反復性肩関節前方不安定における鏡視下自家腸骨ブロック移植術の手術適応と術式. 米田稔 (編集), スキル関節鏡アトラス 肩関節鏡下手術 (第1版). 文光堂, 東京, 2010; 336-343.
52. 菅谷啓之. 関節鏡下手術 Q&A 腱板疎部縫縮術を追加しないと脱臼再発を防げないのはなぜでしょうか? 米田稔 (編集), スキル関節鏡アトラス 肩関節鏡下手術 (第1版), 文光堂, 東京, 2010; 60.
53. 菅谷啓之. 各論 1. スポーツ外傷・障害のメカニズムと予防のポイント, 4. 一流体操選手における肩関節障害. 武藤芳照 (編著), スポーツ医学実践ナビ スポーツ外傷・障害の予防とその対応 (第1版). 日本医事新報社, 東京, 2009; 78-83.
54. 菅谷啓之. 11章 鏡視下手術基本手技 肩関節. 越智隆弘 (専門編集), 最新整形外科学大系 3 運動器の治療学 (第1版). 中山書店, 東京, 2009.
55. 菅谷啓之 (編集). 実践 肩のこり・痛みの診かた治しかた (第1版). 全日本病院出版会, 東京 2008.
56. 菅谷啓之. VIII 腱板障害 [応用編] 1. 鏡視下縫合. In 高岸憲二 (編集), Knack & Pitfalls 肩関節外科の要点と盲点 (第1版). 文光堂, 東京, 2008 .

57. 菅谷啓之. VIII 腱板障害 [応用編] 3. 腱板部分断裂 ②広範な腱内断裂の処理. In 高岸憲二 (編集), *Knack & Pitfalls 肩関節外科の要点と盲点* (第1版). 文光堂, 東京, 2008.
58. 菅谷啓之. IX 上方関節唇障害と上腕二頭筋長頭腱 3. 上腕二頭筋長頭腱脱臼 ③鏡視下入口部修復. In 高岸憲二 (編集), *Knack & Pitfalls 肩関節外科の要点と盲点* (第1版). 文光堂, 東京, 2008.
59. 菅谷啓之. 20 ゴルフ ドクター編. In 林 光俊 (編集主幹), *ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の治療* (初版). 南江堂, 東京, 2007: 383-389.
60. 菅谷啓之. 4章 治療 手術療法 関節鏡手術. In 高岸憲二 (編集), *整形外科学大系 13: 肩関節・肩甲帯* (第1版). 中山書店, 東京, 2006: 102-116.
61. 菅谷啓之. スポーツ選手の肩関節不安定症の診断と治療. In 福林 徹 (編集), *実践にすぐ役立つアスレティックリハビリテーションマニュアル* (第1版). 全日本病院出版会, 東京 2006: 26-30.
62. 菅谷啓之 (訳). 15章 肩 In 守屋秀繁 (監訳), *スポーツリハビリテーション 最新の理論と実践* (初版). 西村書店, 東京, 2006: 193-212.
63. 菅谷啓之. 20 ゴルフ ドクター編. 林 光俊 (編集主幹, ナショナルチームドクター・トレーナーが書いた種目別スポーツ障害の治療. 改訂第2版, 南江堂, 東京 2014: 388-394.

<論文>

(英語論文)

1. Hamada H, Sugaya H, Takahashi N, Matsuki K, Tokai M, Ueda Y, Hoshika S, Kuniyoshi K. Incidence of Axillary Nerve Injury After Arthroscopic Shoulder Stabilization. *Arthroscopy*. 2020 Feb 26. [Epub ahead of print]
2. Hoshika S, Nimura A, Takahashi N, Sugaya H, Akita K. Valgus stability is enhanced by flexor digitorum superficialis muscle contraction of the index and middle fingers. *J Orthop Surg Res*. 2020 Mar 30;15(1):121.
3. Iijima Y, Matsuki K, Hoshika S, Ueda Y, Hamada H, Tokai M, Takahashi N, Sugaya H, Watanabe A. Relationship between postoperative retear and preoperative fatty degeneration in large and massive rotator cuff tears: quantitative analysis using T2 mapping. *J Shoulder Elbow Surg* 2019; 28: 1562-1567.
4. Matsuki K, Sugaya H, Hoshika S, Ueda Y, Takahashi N, Tokai M, Banks SA. Three-dimensional measurement of glenoid dimensions and orientations. *J Orthop Sci* 2019; 24: 624-630.

5. Ueda Y, Sugaya H, Takahashi N, Matsuki K, Tokai M, Onishi K, Hoshika S, Hamada H. Prevalence and Site of Rotator Cuff lesions in Shoulders with Recurrent Anterior Instability in Young Population. *Orthop J Sports Med* 2019; 7(6): 2.32597E+15
6. Shibayama K, Sugaya H, Matsuki K, Takahashi N, Tokai M, Onishi K, Tanaka S. Repair integrity and functional outcomes after arthroscopic suture bridge subscapularis tendon repair. *Arthroscopy* 2018; 34(9): 2541-2548.
7. Matsuki K, Sugaya H, Hoshika S, Takahashi N, Kenmoku T, Banks SA. Scaption kinematics of reverse shoulder arthroplasty do not change after the sixth postoperative month. *Clin Biomechanics* 2018; 58:1-6.
8. Tanaka M, Nimura A, Takahashi N, Mochizuki T, Kato R, Sugaya H, Akita K. Location and thickness of delaminated rotator cuff tears: cross sectional analysis with surgery record review *J Shoulder Elbow Surg* 2018; Open Access 2:84-90.
9. Matsuki K, Sugaya H, Takahashi N, Kawasaki T, Yoshimura H, Kenmoku T. Degradation of Cylindrical Poly-Lactic Co-Glycolide/Beta-Tricalcium Phosphate Biocomposite Anchors After Arthroscopic Bankart Repair: A Prospective Study. *Orthopedics*. 2018 Mar 1:1-6.
10. Ueda Y, Sugaya H, Takahashi N, Matsuki K, Tokai M, Onishi K, Hoshika S, Hamada H. Arthroscopic Fragment Resection for Capitellar Osteochondritis Dissecans in Adolescent Athletes: 5- to 12-Year Follow-up. *Orthop J Sports Med*. 2017 Dec 15;5(12): eCollection.
11. Tanaka M, Nimura A, Takahashi N, Mochizuki T, Kato R, Sugaya H, Akita K. Location and Thickness of Delaminated Rotator Cuff Tears: Cross-sectional Analysis with Surgery Record Review. *JSES Open Access* 2017; in press.
12. Tonotsuka H, Sugaya H, Takahashi N, Kawai N, Sugiyama H, Marumo K. Target range of motion at 3 months after arthroscopic rotator cuff repair and its effect on the final outcome. *J Orthop Surg* 2017; 25(3): 1-8.
13. Takahashi N, Sugaya H, Matsuki K, Miyauchi H, Matsumoto M, Tokai M, Onishi K, Hoshika S, Ueda Y. Hypertrophy of the extra-articular tendon of the long head of biceps correlates with the location and size of a rotator cuff tear. *Bone Joint J* 2017; 99B: 806-811.
14. Matsuki K, Sugaya H, Hoshika S, Ueda Y, Takahashi N, Tokai M, Onishi K, Banks SA. Geometric analysis of the proximal humerus in elderly Japanese patients implications for implant selection in reverse shoulder arthroplasty. *Orthopaedics* 2017; in press.
15. Kajiyama S, Muroi S, Sugaya H, Takahashi N, Matsuki K, Kawai N, Osaki M. Osteochondritis Dissecans of the Humeral Capitellum in Young Athletes: Comparison Between Baseball Players and Gymnasts. *Orthop J Sports Med* 2017; 5 (3): Epub ahead of print.
16. Takahashi N, Sugaya H, Matsumoto M, Miyauchi H, Matsuki K, Tokai M, Kawai N, Onishi K, Ueda Y, Hoshika S. Progression of degenerative changes of the biceps tendon after successful rotator cuff repair. *J Shoulder Elbow Surg* 2017; 26: 424-429.

17. Iijima Y, Matsuki K, Hoshika S, Ueda Y, Onishi K, Tokai M, Takahashi N, Sugaya H, Dougo K, Watanabe A. Differences in Fatty Degeneration of Rotator Cuff Muscles at Different Sites, as Quantified by T2 Mapping. *J Orthop Sci* 2017; 22: 281-284.
18. Kanazawa K, Hagiwara Y, Kawai N, Sekiguchi T, Koide M, Ando A, Sugaya H, Itoi E. Correlations of coracohumeral ligament and range of motion restriction in patients with recurrent anterior glenohumeral instability evaluated by magnetic resonance arthrography. *J Shoulder Elbow Surg* 2017; 26: 233-240.
19. Sugaya H, Takahashi N. Arthroscopic Osseous Bankart Repair in the Treatment of Recurrent Anterior Glenohumeral Instability. *J Bone Joint Surg. Essential Surgical Technique* 2016; 6 (3): e26.
20. Matsuki K, Kenmoku T, Ochiai N, Sugaya H, Banks SA. Differences in glenohumeral translations calculated with three methods: Comparison of relative positions and contact point. *J Biomech* 2016; 49: 1944-1947.
21. Itoi E, Arce G, Bain GI, Diercks RL, Guttman D, Imhoff AB, Mazzocca AD, Sugaya H, Yoo YS. Shoulder Stiffness: Current Concepts and Concerns. *Arthroscopy* 2016; 32 : 1402-14.
22. Cha SW, Lee CK, Sugaya H, Kim T, Lee SC. Retraction pattern of delaminated rotator cuff tears: dual-layer rotator cuff repair. *J Orthop Surg Res* 2016; 11: 75: online.
23. Ng WM, Chan CK, Takahashi N, Kawai N, Teh KK, Saravana R, Sugaya H. Radiological analysis of the medial epicondyle in the adolescent throwing athlete. *Singapore Med J* 2016: Published ahead of print: 15 March 2016.
24. Kitayama S, Sugaya H, Takahashi N, Matsuki K, Kawai N, Tokai M, Ohnishi K, Ueda Y, Hoshika S, Kitamura N, Yasuda K, Moriishi J. Clinical Outcome and Glenoid Morphology after Arthroscopic Chronic Bony Bankart Repair: A 5 to 8 Year Follow-up. *J Bone Joint Surg Am* 2015; 97: 1833-1843.
25. Tasaki A, Nimura A, Mochizuki T, Yamaguchi K, Kato R, Sugaya H, Akita K. Anatomic observation of the running space of the suprascapular nerve at the suprascapular notch in the same direction as the nerve. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc* 2015; 23: 2667-73.
26. Ueda Y, Sugaya H, Takahashi N, Matsuki K, Kawai N, Tokai M, Ohnishi K, Hoshika S. Rotator Cuff Lesions in Patients with Stiff Shoulder: A Prospective Analysis of 379 Shoulders. *J Bone Joint Surg Am* 2015; 97:1233-7.
27. Hagiwara Y, Sugaya H, Takahashi N, Kawai N, Hamada J, Itoi E. Effects of intra-articular steroid injection before pan-capsular release in patients with refractory frozen shoulder. *Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc* 2015; 23: 1536-41
28. Nozaki T, Nimura A, Fujishiro H, Mochizuki T, Yamaguchi K, Kato R, Sugaya H, Akita K. The anatomic relationship between the morphology of the greater tubercle of the humerus and the insertion of the infraspinatus tendon. *J Shoulder Elbow Surg* 2015; 24: 555-60.

29. Matsuki K, Sugaya H. Complications after arthroscopic labral repair for shoulder instability. *Curr Rev Musculoskelet Med.* 2015 Mar; 8: 53-8.
30. Arai R, Nimura A, Yamaguchi K, Yoshimura H, Sugaya H, Sagi T, Matsuda S, Akita K. The anatomy of the coracohumeral ligament and its relation to the subscapularis muscle. *J Shoulder Elbow Surg* 2014; 23: 1575-81.
31. Sugaya H. Techniques to evaluate glenoid bone loss. *Curr Rev Musculoskelet Med.* 2014 Mar;7(1):1-5.
32. Nimura A, Fujishiro H, Wakabayashi Y, Imatani J, Sugaya H, Akita K. Joint capsule attachment to the extensor carpi radialis brevis origin: an anatomical study with possible implications regarding the etiology of lateral epicondylitis. *J Hand Surg Am.* 2014;39:219-25.
33. Matsuki K, Matsuki KO, Mu S, Kenmoku T, Yamaguchi S, Ochiai N, Sasho T, Sugaya H, Toyone T, Wada Y, Takahashi K, Banks SA. In vivo 3D analysis of clavicular kinematics during scapular plane abduction: comparison of dominant and non-dominant shoulders. *Gait Posture* 2014;39:625-7.
34. Arce G, Bak K, Bain G, Calvo E, Ejnisman B, Di Giacomo G, Gutierrez V, Guttmann D, Itoi E, Ben Kibler W, Ludvigsen T, Mazzocca A, de Castro Pochini A, Savoie F 3rd, Sugaya H, Uribe J, Vergara F, Willems J, Yoo YS, McNeil JW 2nd, Provencher MT. Management of disorders of the rotator cuff: proceedings of the ISAKOS upper extremity committee consensus meeting. *Arthroscopy* 2013;29:1840-50.
35. Ando A, Sugaya H, Hagiwara Y, Takahashi N, Watanabe T, Kanazawa K, Itoi E. Identification of prognostic factors for the nonoperative treatment of stiff shoulder. *Int Orthop* 2013;37:859-64.
36. Nimura A, Kato A, Yamaguchi K, Mochizuki T, Okawa A, Sugaya H, Akita K. The superior capsule of the shoulder joint complements the insertion of the rotator cuff. *J Shoulder Elbow Surg* 2012;21: 867-72
37. Kato A, Nimura A, Yamaguchi K, Mochizuki T, Sugaya H, Akita K. An anatomical study of the transverse part of the infraspinatus muscle that is closely related with the supraspinatus muscle *Surg Radiol Anat* 2012;34:257-65.
38. Matsuki K, Matsuki KO, Yamaguchi S, Ochiai N, Sasho T, Sugaya H, Toyone T, Wada Y, Takahashi K, Banks SA. Dynamic In Vivo Glenohumeral Kinematics During Scapular Plane Abduction in Healthy Shoulders. *J Orthop Sports Phys Ther* 2012;42:96-104.
39. Hagiwara Y, Sugaya H, Takahashi N, Nakajima Y, Manabe H, Itoi E. Bilateral refractory frozen shoulders treated with conservative and surgical treatments — a case report of long-term follow-up. *Eur Orthop Traumatol* 2012; 3:81–84.
40. Hagiwara Y, Ando A, Onoda Y, Takemura T, Minowa T, Hanagata N, Tsuchiya M, Watanabe T, Chimoto E, Suda H, Takahashi N, Sugaya H, Saijo Y, Itoi E. Coexistence of fibrotic and chondrogenic process in the capsule of idiopathic frozen shoulders. *Osteoarthritis and Cartilage*

- 2012; 20: 241-9.
41. Ando A, Sugaya H, Takahashi N, Kawai N, Hagiwara Y, Itoi E. Arthroscopic Management for Selective Loss of External Rotation after Surgical Stabilization of Traumatic Anterior Glenohumeral Instability: Arthroscopic RATS Procedure. *Arthroscopy* 2012; 28:749-53.
  42. Hatta T, Shinozaki N, Omi R, Sano H, Yamamoto N, Ando A, Sugaya H, Aizawa T, Kuriyama S, Itoi E. Reliability and validity of the Western Ontario Shoulder Instability Index (WOSI) in the Japanese population. *J Orthop Sci* 2011; 16: 732-6.
  43. Matsuki K, Matsuki KO, Mu S, Yamaguchi S, Ochiai N, Sasho T, Sugaya H, Toyone T, Wada Y, Takahashi K, Banks SA. In vivo 3-dimensional analysis of scapular kinematics: comparison of dominant and nondominant shoulders. *J Shoulder Elbow Surg* 2011;20:659-65.
  44. Matsuki K, Sugaya H, Watanabe A, Toyone T, Moriishi J, Mochizuki T, Akita K, Wada Y. Infraspinatus muscle atrophy as a function of the sagittal extent of rotator cuff tears. *Orthopedics* 2010 May 12;33(5).
  45. Arai R, Mochizuki T, Yamaguchi K, Sugaya H, Kobayashi M, Nakamura T, Akita K. Functional Anatomy of the Superior Glenohumeral and Coracohumeral Ligament and the Subscapularis Tendon in View of Stabilization of the Long Head of the Biceps Tendon. *J Shoulder Elbow Surg* 2010;19:58-64.
  46. Mochizuki T, Sugaya H, Uomizu M, Maeda K, Matsuki K, Sekiya I, Muneta T, Akita K. Humeral Insertion of the Supraspinatus and Infraspinatus. New Anatomical Findings Regarding the Footprint of the Rotator Cuff. Surgical Technique. *J Bone Joint Surg Am* 2009;91A Suppl 2 Part 1:1-7.
  47. Arai R, Sugaya H, Mochizuki T, Nimura A, Moriishi J, Akita K. Subscapularis Tendon Tear: an Anatomical and Clinical Investigation. *Arthroscopy* 2008;24:997-1004.
  48. Mochizuki T, Sugaya H, Uomizu M, Maeda K, Matsuki K, Sekiya I, Muneta T, Akita K. Humeral Insertion of the Supraspinatus and Infraspinatus. New Anatomical Findings Regarding the Footprint of the Rotator Cuff. *J Bone Joint Surg Am* 2008;90A:962-969.
  49. Sugaya H, Maeda K, Matsuki K, Moriishi J. Repair Integrity and Functional Outcome after Arthroscopic Double-row Rotator Cuff Repair: A Prospective Outcome Study. *J Bone Joint Surg Am* 2007; 89A: 953-960.
  50. Sugaya H, Moriishi J, Kanisawa I, Tsuchiya A. Arthroscopic Osseous Bankart Repair for Chronic Traumatic Anterior Glenohumeral Instability. Surgical technique. *J Bone Joint Surg Am* 2006; 88A (Supplement 1 part 2):159-69.
  51. Sugaya H, Maeda K, Matsuki K, Moriishi J. Functional and Structural Outcome After Arthroscopic Full-Thickness Rotator Cuff Repair: Single-Row Versus Dual-Row Fixation. *Arthroscopy* 2005; 21(11): 1307-1316.
  52. Sugaya H, Moriishi J, Kanisawa I, Tsuchiya A. Arthroscopic Osseous Bankart Repair for Chronic

- Recurrent Traumatic Anterior Glenohumeral Instability. *J Bone Joint Surg Am* 2005; 87A: 1752-1760.
53. Sugaya H, Kon Y, Tsuchiya A. Arthroscopic Repair of Glenoid Fractures Using Suture Anchors. *Arthroscopy* 2005; 21: 635.e1-635.e5.
  54. Kon Y, Shiozaki H, Sugaya H. Arthroscopic Repair of a Humeral Avulsion of the Glenohumeral Ligament Lesion. *Arthroscopy* 2005; 21: 632.e1-632.e6.
  55. Saito H, Itoi E, Sugaya H, Minagawa H, Yamamoto N, Tuoheti Y. Location of the Glenoid Defect in Shoulders With Recurrent Anterior Dislocation. *Am J Sports Med* 2005; 33: 889-893.
  56. Sugaya H, Kon Y, Tsuchiya A. Arthroscopic Bankart Repair in the Beach-chair Position: A Cannulaless Method Using an Intra-articular Suture Relay Technique. *Arthroscopy* 20 (Suppl 1): 116-120, 2004.
  57. Sugaya H, Moriishi J, Dohi M, Kon Y, Tsuchiya A. Glenoid Rim Morphology in Recurrent Anterior Glenohumeral Instability. *J Bone Joint Surg Am* 2003; 85A: 878-884.
  58. Mitchell K, Banks BA, Morgan DA, Sugaya H. Normal Shoulder Motions During the Golf Swing in Male Amateur Golfers. *J Orthop Sports Phys Ther* 2003; 33: 196-203.
  59. Morgan DA, Sugaya H, Banks SA, et al. The influence of age on lumbar mechanics during the golf swing. *Science and Golf III: Proceedings of the 3rd World Scientific Congress of Golf*, Farrally and Cochran ed., Human Kinetics: 120-126, 1998.
  60. Sugaya H, Banks SA, Morgan DA, et al. Low back injury in elite and professional golfers: an epidemiologic and radiographic study. *Science and Golf III: Proceedings of the 3rd World Scientific Congress of Golf*, Farrally and Cochran ed., Human Kinetics: 83-91, 1998.
  61. Sugaya H, Tsuchiya A, Moriya H, et al. Asymmetric radiographic findings on the lumbar spine in elite and professional golfers. *Orthop Trans* 1997; 21: 312-313.
  62. Sugaya H, Tsuchiya A, Moriya H, et al. Motion analysis of the trunk during the golf swing. *Jpn J Orthop Sports Med* 1996; 16: 330-337.

(日本語論文)

1. 面谷透, 菅谷啓之, 高橋憲正, 松木圭介, 渡海守人, 森岡健, 上田祐輔, 星加昭太, 竹内康剛, 上条秀樹, 出口友彦. 体操選手の肩関節不安定症に対する手術成績. *JOSKAS* 2020; 45(2): 316-317
2. 菅谷啓之. 連載 私の整形外科診療のコツ 第2回 肩腱板断裂～肩関節鏡視下手術におけるコツ. *関節外科* 2019; 38: 742-746.
3. 江草真, 渡海守人, 菅谷啓之. 特集: 整形外科疾患のリハビリテーション最前線 肩のスポーツ傷害. *臨床リハ* 2019; 28: 621-628.
4. 佐藤晋也, 飯田勝彦, 三枝奨, 酒井大輔, 高見悠也, 網代広宣, 菅谷啓之, 高橋憲正, 松木圭介. 高校野球投手・野手の筋力比較. *千葉スポーツ医学研究会誌* 2018; 15:

- 1-4.
5. 渡海守人, 菅谷啓之. リバース型人工肩関節置換術. 臨床リハ 2018; 27: 1297-1302.
6. 関口貴博, 菅谷啓之. 肩部障害の Motor Control 機能評価と対処方法. Monthly Book Orthopaedics 2018; 31: 37-44.
7. 石谷勇人, 高村隆, 菅谷啓之. I. 基礎知識-総論- 子どものスポーツ障害に対するリハビリテーション. Monthly Book Medical Rehabilitation 2018; 228: 26-32.
8. 菅谷啓之, 高村隆. 我が国における投球障害(肩・肘)の現状と対策. 日本臨床スポーツ医学会誌 2018; 26(3): 293.
9. 菅谷啓之. 投球障害肩の現況. 日本臨床スポーツ医学会誌 2018; 26(3): 297-299.
10. 早坂仰, 菅谷啓之. 投球障害に対する理学療法の実際. 整形外科最小侵襲ジャーナル 2018; No. 88: 2-10.
11. 濱田博成, 菅谷啓之. 腱板再断裂の診断と手術・後療法. 関節外科 2018; 37(7): 748-754.
12. 井坂晴志, 岡西尚人, 山本紘之, 今村進吾, 菅谷啓之. 運動療法が石灰融解過程促進に寄与した可能性のある石灰沈着性腱板炎の一例. 理学療法ジャーナル 2017; 51(9): 823-7.
13. 菅谷啓之. リバース型人工肩関節でわかったこと Aequalis™ Reversed Shoulder. 臨床整形外科 2017; 52: 125-131.
14. 菅谷啓之. 野球肩, 野球肘. 今日の治療指針 2017; Vol. 59: 1087-88.
15. 枝重光洋, 篠崎晋久, 安井謙二, 神戸克明, 菅谷啓之, 加藤義治. 偽性麻痺肩に外旋筋力低下を伴った広範囲腱板断裂に対し, リバース型人工肩関節置換術に L'Episcopo 変法を併用した一例. 関節外科 2016; 35: 1234-1239.
16. 高橋憲正, 菅谷啓之. 広範囲腱板断裂に対する鏡視下手術の位置づけ. 臨床整形外科 2016; 51: 720-728.
17. 大西和友, 菅谷啓之, 高橋憲正, 渡海守人, 星加昭太, 濱田博成, 竹内康剛, 森岡健. 野球選手の SLAP 損傷の手術成績. JOSKAS 2016; 41: 34-5.
18. 濱田博成, 大西和友, 菅谷啓之. 肩甲帯・肩・肘関節疾患. 整形外科 2016; 67: 1291-1301.
19. 古澤志穂, 高橋憲正, 菅谷啓之, 老沼和弘. リバース型人工肩関節置換術における出血量の調査. 自己血輸血 2016; 28: 63-67.
20. 戸野塚久紘, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 立原久義, 寺林伸夫. 少年期野球肘内側障害と投球復帰 異常画像所見治癒群と残存群における比較. 神奈川県総合リハビリテーションセンター紀要 2016; 40: 13-18.
21. 鳥居扶紀子, 鈴木智, 高村隆, 日詰和也, 菅谷啓之, 高橋憲正. 柔道選手に対する鏡視下バンカート修復術後の競技復帰について. 臨床整形外科 2016; 51: 1149-1153.
22. 菅谷啓之. リバース型人工肩関節置換術における関節窩の処置が必要な症例. 関節外科

- 2016 ; 35 : 1093-1101.
23. 菅谷啓之. 五十肩 (凍結肩). 今日の整形外科治療指針 2016 ; 第 7 版 : 407-8.
  24. 菅谷啓之. 投球障害肩. 今日の整形外科治療指針 2016 ; 第 7 版 : 408-9.
  25. 大西和友, 菅谷啓之. 特集 : 保存療法でなおす運動器疾患 - OA から外傷まで - I. 上肢 肩峰下インピンジメント症候群. MB Orthop 2015 ; 28 (10 月増刊) : 1-8.
  26. 菅谷啓之. リバース型人工肩関節置換術の手術適応と手技. 関節外科 2015 ; 34 : 1033-1039.
  27. 菅谷啓之. 反復性肩関節脱臼. 今日の診断指針 2015 ; 第 7 版 : 1527-1528.
  28. 菅谷啓之. Cuff Tear Arthropathy に対するリバース型人工肩関節置換術. 整形災害外科 2015 ; 58 : 984-989.
  29. 菅谷啓之. 診断に迷う野球肘 離断性骨軟骨炎への病態に即した対応〜いつから, どのように投球を許可するか. 臨床スポーツ医学 2015 ; 32 : 632-635.
  30. 渡海守人, 菅谷啓之. 離断性骨軟骨炎に対する鏡視下郭清術 - 適応と実際 -. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2015 ; 74 : 33-41.
  31. 大西和友, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 松木圭介, 渡海守人 野球選手に生じた肘頭障害に対する保存療法の治療成績. 日本肘関節学会雑誌 2014 ; 21 : 217-221.
  32. 上田祐輔, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 松木圭介, 渡海守人. デッドボールを契機に右肘難治性 Complex Regional Pain Syndrome(CRPS) を発症し, 引退とともに軽快した高校野球選手の 1 例. 日本肘関節学会雑誌 2014 ; 21 : 222-225.
  33. 星加昭太, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 松木圭介, 渡海守人 プロ野球選手肘関節の X 線学的検討. 日本肘関節学会雑誌 2014 ; 21 : 237-239.
  34. 松木圭介, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 渡海守人, 大西和友 肘関節における 2D/3D レジストレーション法の精度-1 方向および 2 方向透視での検討-. 日本肘関節学会雑誌 2014 ; 21 : 321-323.
  35. 菅谷啓之. 中高年の肩関節疾患 - 外来診療のポイント. 整形外科 2014 ; 65 : 1275-1282.
  36. 松本章司, 陣内雅史, 豊田敦, 安井謙二, 菅谷啓之. 胸鎖関節が不安定なことから上肢の挙上動作が長期間困難であった一例. 日本臨床整形外科学会雑誌 2014 ; 39 : 111-115.
  37. 高橋憲正, 菅谷啓之. 骨欠損を伴う反復性肩関節脱臼に対する関節鏡視下腸骨移植術. JMIOS 2014 ; 71 : 75-83.
  38. 高橋憲正, 菅谷啓之. 広範囲腱板断裂の診断と治療方針の選択. 整形災害外科 2014 ; 57 : 473-479.
  39. 河合伸昭, 菅谷啓之. 腱板広範囲断裂に対する大腿筋膜パッチ法. 整形災害外科 2014 ; 57 : 499-506.
  40. 高橋憲正, 菅谷啓之. オーバーヘッドアスリート利き手側の反復性肩関節脱臼に対する鏡視下手術. MB Orthop 2014 ; 27 5 月増刊 : 1-6.
  41. 菅谷啓之. コリジョンアスリートの反復性肩関節前方不安定症に対する鏡視下手術.

- MB Orthop 2014 ; 27 5月増刊 : 14-20.
42. 河合伸昭, 菅谷啓之. 変形性肘関節症に対する鏡視下手術. MB Orthop 2014 ; 27 5月増刊 : 69-76.
  43. 菅谷啓之. 特集 スポーツ障害の診かた・治し方 上肢のスポーツ障害—肩. 日医雑誌 2014 ; 143 : 289-292.
  44. 飯田勝彦, 酒井大輔, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 田中基貴, 大西和友, 上田祐輔, 笹沼秀幸, 佐藤謙次, 土屋明弘. 骨盤肢位の影響が肩甲骨周囲筋の筋活動に与える影響について—ロウイング動作に着目して—. JOSKAS 2014; 39: 26-27.
  45. 大西和友, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 渡海守人, 田中基貴. 体操選手に生じた肘関節離断性骨軟骨炎の特徴. 日肘会誌 2013 ; 20 : 115-117.
  46. 上田祐輔, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 渡海守人, 田中基貴. サッカー選手と野球選手の非投球側に生じた上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の4例. 日肘会誌 2013 ; 20 : 118-121.
  47. 田中基貴, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 渡海守人, 大西和友. テニス競技者に生じた症候性の変形性肘関節症の実態と鏡視下手術成績. 日肘会誌 2013 ; 20 : 128-131.
  48. 高橋憲正, 菅谷啓之, 河合伸昭, 田中基貴, 渡海守人, 大西和友. 関節鏡視下肘部管開放術の短期成績. 日肘会誌 2013 ; 20 : 132-134.
  49. 河合伸昭, 菅谷啓之. 投球障害肩に対する低侵襲治療. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2013 ; 69 : 75-83.
  50. 河合伸昭, 菅谷啓之. 肩関節の変性疾患 (五十肩と腱板断裂). 医学と薬学 2013; 7: 905-915.
  51. 田崎篤, 二村昭元, 望月智之, 加藤龍一, 山口久美子, 菅谷啓之, 黒田栄史, 秋田恵一. 肩関節神経走行 (肩甲上神経を中心に). Bone Joint Nerve 2013; 3: 611-615.
  52. 落合信靖, 菅谷啓之, 高橋憲正, 今泉光, 山口桃子. 肩関節の超音波診断と治療. Bone Joint Nerve 2013; 3: 661-667.
  53. 安井謙二, 加藤義治, 中村篤司, 神戸克明, 菅谷啓之. 関節破壊を伴う感染の搔爬後に良好なりモデリングを認めた1例. 肩関節 2013 ; 37 : 1327-1329.
  54. 吉居啓幸, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 北山聡一郎, 田中基貴, 渡海守人, 岩本航, 星加昭太, 森石丈二. ボクサーに発生した両側肩甲骨関節窩離断性骨軟骨炎の長期経過. 肩関節 2013 ; 37 : 1323-1326.
  55. 星加昭太, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 田中基貴, 北山聡一郎, 渡海守人, 岩本航, 朱田尚徳, 吉居啓幸, 森石丈二. 肩甲切痕で絞扼障害された肩甲上神経麻痺に対する鏡視下手術の2例. 肩関節 2013 ; 37 : 1299-1302.
  56. 渡海守人, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 田中基貴, 北山聡一郎, 岩本航, 吉居啓幸, 星加昭太, 森石丈二. 上腕骨大結節骨折変形治癒に対する鏡視下手術成績. 肩関節 2013 ; 37 : 1055-1058.

57. 田中基貴, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 北山聡一郎, 渡海守人, 岩本航, 笹沼秀幸, 大西和友, 上田祐輔, 森石丈二, 梶山史郎 反復性肩関節脱臼における新しいレントゲン撮影法(新法)を用いた前方不安定性の評価. 肩関節 2013; 37: 945-948.
58. 岩本航, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 田中基貴, 北山聡一郎, 渡海守人, 吉居啓幸, 森石丈二. 症候性腱板完全断裂における肩関節可動域制限の特徴. 肩関節 2013; 37: 771-773.
59. 落合信靖, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 森石丈二. 腱板断裂に伴う肩甲上神経麻痺の検討. 肩関節 2013; 37: 673-675.
60. 高橋憲正, 菅谷啓之, 河合伸昭, 田中基貴, 北山聡一郎, 渡海守人, 岩本航, 森石丈二. 外傷性肩関節前方不安定症における HAGL lesion の特徴と鏡視下手術 肩 関 節 2013; 37: 543-547.
61. 北山聡一郎, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 田中基貴, 渡海守人, 岩本航, 森石丈二. 関節鏡視下骨性バンカート修復術の中長期成績と骨形態変化. 肩関節 2013; 37: 535-538.
62. 笹森正子, 久木 元貢, 小形 松子, 菅谷 啓之, 高橋 憲正, 古山 和恵. 鏡視下腱板修復術における術後疼痛管理について: 持続皮下注射法と腕神経叢ブロックの比較. 東日本整形災害外科学会雑誌 2013; 25: 25-2.
63. 山川 晃, 菅谷 啓之, 高橋 憲正, 河合 伸昭, 永井 宏和, 星川 吉光. アメリカンフットボール選手の外傷性肩関節前方不安定症の治療成績 整スポ会誌 2013; 33: 116-11.
64. 菅谷啓之. 投球障害肩の診断と治療戦略~我々の治療方針と成績. 整スポ会誌 2013; 33: 246-252.
65. 星加昭太, 菅谷 啓之, 高橋 憲正, 河合 伸昭, 田中 基貴, 渡海 守人. スポーツ愛好家の若年女性にみられた難治性凍結肩の治療経験. 臨床スポーツ医学 2013; 30: 489-492.
66. 高橋憲正, 菅谷啓之. 投球障害における腱板関節面断裂の診断と治療. 臨床スポーツ医学 2013; 30: 873-878.
67. 菅谷啓之. アスリートの変形性肘関節症に対する鏡視下手術. 臨床スポーツ医学 2013; 30 巻 臨時増刊号: 61-67.
68. 今泉光, 高橋憲正, 岩本航, 田中基貴, 河合伸昭, 菅谷啓之. 症候性腱板断裂に伴う上腕二頭筋長頭腱肥大化の検討-超音波による健側との比較-. 東日本整災会誌 2013; 25: 142-146.
69. 梶山史郎, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 永井宏和, 田中基貴, 北山聡一郎, 朱田尚徳, 山川晃. 肩関節術後の重度外旋制限に対する鏡視下 Restoration of Anterior Transverse Sliding (RATS) 法の有用性. JOSKAS 会誌 2013 ; 38: 478-482.
70. 北山聡一郎, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 田中基貴, 渡海守人, 岩本航, 星加将太, 安田和則. 車椅子競技者の腱板断裂に対する手術経験. JOSKAS 会誌 2013; 38: 467-471.

71. 河合伸昭, 菅谷啓之, 高橋憲正, 北山聡一郎, 田中基貴, 永井宏和. 肘滑膜性骨軟骨腫症に対する鏡視下手術による治療経験. 日肘会誌 2013 ; 19 : 271-274.
72. 高橋憲正, 菅谷啓之, 河合伸昭, 永井宏和, 田中基貴, 北山聡一郎. 変形性肘関節症の病因と鏡視下手術の成績. 日肘会誌 2013 ; 19 : 263-266.
73. 永井宏和, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 田中基貴, 梶山史郎. 健側骨端線未閉鎖の広範型上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する肩甲帯機能修正を目指した理学療法後の画像変化. 日肘会誌 2013 ; 19 : 126-130.
74. 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 永井宏和, 梶山史郎, 田中基貴. 広範型上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する自家骨軟骨柱移植－手術のタイミングと臨床成績－. 日肘会誌 2013 ; 19 : 98-101.
75. 立原久義, 菅谷啓之, 高橋憲正, 柴原 基. 少年期上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する積極的保存療法の効果－手術併用例における術前画像変化. 日肘会誌 2013 ; 19 : 87-90.
76. 高橋憲正, 菅谷啓之. III. 腱板断裂 鏡視下腱板修復術の術式と後療法－手術適応と術式－Monthly Book Medical Rehabilitation 2013; 157: 52-59.
77. 笹沼秀幸, 菅谷啓之. 症例から学ぶ肩痛 中・高齢者の肩痛. 治療 2013 ; 95 : 387-403.
78. 今泉光, 山口桃子, 高橋憲正, 岩本航, 田中基貴, 菅谷啓之. 腱板断裂に伴う上腕二頭筋長頭腱肥大化の実態. 日本整形外科超音波学会誌 2012 ; 24 : 98-102.
79. 山口桃子, 今泉光, 高橋憲正, 岩本航, 田中基貴, 菅谷啓之. 超音波パワードプラ法を用いた上腕二頭筋長頭腱周囲の炎症評価. 日本整形外科超音波学会誌 2012 ; 24 : 50-55.
80. 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 渡海守人. 大きな骨欠損を伴う外傷性肩関節前方不安定症に対する鏡視下腸骨移植術. 関節外科 2012 ; 31 : 1416-1423.
81. 高橋憲正, 菅谷啓之, 河合伸昭, 永井宏和, 島田憲明, 田中基貴, 田巻達也, 設楽仁, 森石丈二. 競技レベルの野球選手に対する反復性肩関節脱臼の治療成績. 肩関節 2012 ; 36 : 367-371.
82. 島田憲明, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 永井宏和, 田中基貴, 設楽仁, 田巻達也, 小倉誉大, 森石丈二. 肩関節 2012 ; 36 : 373-376.
83. 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 永井宏和, 島田憲明, 田中基貴, 森石丈二. 高度な骨欠損を伴う反復性肩関節前方不安定症に対する鏡視下腸骨移植術. 肩関節 2012 ; 36 : 383-387.
84. 永井宏和, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 島田憲明, 田中基貴, 設楽仁, 田巻達也, 小倉誉大, 森石丈二. 肩鎖関節脱臼に対する人口靭帯を用いた鏡視下再建術の治療成績. 肩関節 2012 ; 36 : 841-845.
85. 田中基貴, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 島田憲明, 永井宏和, 田巻達也, 設楽仁, 小倉誉大, 森石丈二. オーバーヘッド競技者の利き手側の反復性肩関節脱臼の手術成績. 肩関節 2012 ; 36 : 851-855.
86. 永井宏和, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 島田憲明, 田中基貴, 設楽仁, 田巻達也,

- 小倉誉大, 森石丈二. アメフト・ラグビー選手の外傷性肩関節前方不安定症の手術成績. 肩関節 2012 ; 36 : 865-869.
87. 河合伸昭, 菅谷啓之, 高橋憲正, 永井宏和, 田中基貴, 田巻達也, 小倉誉大, 森石丈二, 設楽仁, 島田憲明. バスケットボール選手の反復性肩関節脱臼の傾向と鏡視所見. 肩関節 2012 ; 36 : 871-875.
88. 落合信靖, 見目智紀, 山崎博範, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 森石丈二. 腱板断裂術前評価としての誘発筋電図検査の有用性. 肩関節 2012 ; 36 : 897-900.
89. 戸野塚久紘, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 舟崎裕記, 丸毛啓史. 鏡視下腱板修復術における術前疼痛管理の重用性. 肩関節 2012 ; 36 : 905-908.
90. 小倉誉大, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 島田憲明, 永井宏和, 田中基貴, 田巻達也, 設楽仁, 森石丈二. 大きな下方関節包断裂により腋窩神経が露出していた外傷性肩関節前方不安定症の1例. 肩関節 2012 ; 36. 1103-1105.
91. 菅谷啓之. III. 運動器慢性疼痛の診断と治療 3. 肩周囲の長引く痛み～肩関節周囲炎, 腱板損傷, インピンジメント. 整形外科 2012 ; 63, No. 8 (7月増刊号) : 802-807.
92. 前 達雄, 土屋明弘, 菅谷啓之, 中田 研. 鏡視下手術(肩, 肘, 膝, 足関節)における関節灌流液の使用状況 日本整形外科スポーツ医学会雑誌 2012 ; 32 : 46-49.
93. 菅谷啓之. 一次修復不能な腱板広範囲断裂に対する鏡視下パッチ法ーテフロンから大腿筋膜へー. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2012 ; 63 : 61-68.
94. 戸野塚久紘, 菅谷啓之. 成長期アスリートの野球肘 内側障害に対する積極的保存療法. 臨床スポーツ医学 2012 ; 29 : 255-260.
95. 菅谷啓之. トップレベルアスリートの野球肘 関節鏡視下手術. 臨床スポーツ医学 2012 ; 29 : 285-292.
96. 菅谷啓之, 高橋憲正, 仲島佑紀, 鈴木智, 高村隆. スポーツ整形外科術後リハビリテーションプログラム第18回 上肢のスポーツ損傷 変形性肘関節症. 臨床スポーツ医学 2012 ; 29 : 327-336.
97. 松本章司, 安井謙二, 陣内雅史, 豊田敦, 岩間徹, 菅谷啓之. 鎖骨遠位端骨折術後の肩鎖関節障害による上肢拳上障害の一例. 日本臨床整形外科学会雑誌 2011 ; 36 : 284-288.
98. 戸野塚久紘 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 立原久義, 寺林伸夫. 少年期野球肘内側障害に対する保存療法における理学療法的重要性. 日本整形外科スポーツ医学会誌 2011 ; 31 : 171-175.
99. 真鍋博規, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 戸野塚久紘, 中島亮, 寺谷威, 安藤晃, 森石丈二. 鏡視下安定化手術後に急速な変形肩関節症の進行をみた高齢者の一例. 肩関節 2011 ; 35 : 1017-1020.
100. 河合伸昭, 菅谷啓之, 高橋憲正, 戸野塚久紘, 中島亮, 寺谷威, 真鍋博規, 安藤晃, 森石丈二. 夜間痛を伴う一次性肩関節硬縮に対する注射療法の効果. 肩関節 2011 ; 35 : 903-906.

101. 戸野塚久紘, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 中島亮, 寺谷威, 真鍋博規, 安藤晃, 森石丈二. 鏡視下腱板修復術後 3 か月における目標可動域の設定～術後 2 年までの可動域変化からみた検討. 肩関節 2011. 35 : 877-881.
102. 加藤敦夫, 山口久美子, 秋田恵一, 二村昭元, 望月智之, 菅谷啓之. 肩関節包上腕骨大結節付着部の解剖学的検討. 肩関節 2011 ; 35 : 711-714.
103. 吉村英哉, 望月智之, 秋田恵一, 加藤敦夫, 山口久美子, 新井隆三, 菅谷啓之, 浜田純一郎. 烏口上腕靭帯の肩甲下筋腱付着部に関する解剖学的研究: その意義について. 肩関節 2011 : 35 ; 707-710.
104. 高橋憲正, 菅谷啓之, 戸野塚久紘, 河合伸昭, 中島亮, 寺谷威, 安藤晃, 真鍋博規, 森石丈二, 萩原嘉廣. 難治性凍結肩に対する鏡視下全周性関節包切離術の成績. 肩関節 2011 ; 35 : 571-574.
105. 中島亮, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 戸野塚久紘, 寺谷威, 安藤晃, 真鍋博規, 森石丈二. 腱板完全断裂に対する重層固定法による関節鏡視下腱板修復術の成績～Repair Integrity 向上のための工夫. 肩関節 2011 ; 35 : 539-542.
106. 安藤晃, 菅谷啓之, 高橋憲正, 中島亮, 真鍋博規, 寺谷威, 河合伸昭, 戸野塚久紘, 森石丈二. 鏡視下 Bankart 修復術後外線制限の病態と鏡視下手術の有用性－鏡視下 RATS 法－. 肩関節 2011 ; 35 : 301-304.
107. 菅谷啓之. 関節鏡視下腱板修復術. 整形外科サージカルテクニック 2011 ; 5 573-588.
108. 菅谷啓之, 鈴木智. I. コンディショニングの概要 医学的診断・治療に有用なコンディショニング関連情報: 上肢. 臨床スポーツ医学 2011 ; 28 巻, 臨時増刊号 : 21-27.
109. 高橋憲正, 菅谷啓之. 外傷性肩関節前方不安定症. OS NOW Instruction 2011 ; 19 : 59-71.
110. 菅谷啓之, 永井宏和. 関節鏡視下肩鎖関節脱臼再建術. 整形外科 2011 ; 62 (7 月増刊号) : 761-766.
111. 菅谷啓之. 鏡視下腱板修復術の中長期成績. 整形災害外科 2011 ; 54 : 825-833.
112. 菅谷啓之. 手術後の再受傷・再損傷メカニズムの解明 反復性肩関節脱臼. 臨床スポーツ医学 2011 ; 28 : 379-38.
113. 高橋憲正, 菅谷啓之. 腱板断裂術後の評価－臨床成績と構造的な評価－. Monthly Book Orthopaedics 2011 ; 24 (No. 3) : 20-28.
114. 菅谷啓之. 反復性肩関節脱臼に対する鏡視下バンカート法. 整形外科サージカルテクニック 2011 ; 1 : 63-80.
115. 菅谷啓之. 西洋医学における肩痛治療の実際. 医道の日本 2011 ; 70 (No. 3) : 26-31.
116. 菅谷啓之. いわゆる五十肩・腱板断裂. 今日の治療指針 2011 ; 53 : 919-920.
117. 高橋憲正, 菅谷啓之. 外傷性肩関節前方不安定症の X 線および 3 DCT による診断. 関節外科 2010 ; 29 : 1221-1226.
118. 高橋憲正, 菅谷啓之. 外傷性肩関節前方不安定症の理学所見と機能診断－術前評価を中

- 心とした手技の紹介－. 関節外科 2010 ; 29 : 1234-1240.
119. 立原久義, 菅谷啓之, 高橋憲正, 寺林伸夫, 戸野塚久紘, 河合伸昭. 小中学生の上腕骨小頭離断性骨軟骨炎に対する積極的保存療法の効果－手術併用例の臨床的特徴－. 日本肘関節学会雑誌 2010 ; 17 : 32-3.
  120. 菅谷啓之, 戸野塚久紘. 肩関節のスポーツ障害とメディカルチェックのポイント. 整形災害外科 2010 ; 53 : 1575-1582.
  121. 忽那岳志, 新城吾朗, 高村隆, 菅谷啓之. 肩のアンチエイジングとリハビリテーション. Monthly Book Medical Rehabilitation 2010 ; 124 : 63-70.
  122. 高橋憲正, 菅谷啓之. スポーツ外傷の疾患別処置の実際 肩関節・上腕部. 臨床スポーツ医学 2010 ; 27 卷 (臨時増刊号) : 131-137.
  123. 高橋憲正, 菅谷啓之. 離断性骨軟骨炎の鏡視下郭清術－適応と実際－. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2010 ; 56 : 21-28.
  124. 柴原 基, 菅谷啓之, 高橋憲正, 萩原嘉廣, 河合伸昭, 戸野塚久紘, 立原久義, 寺林伸夫, 森石丈二. 中関節上腕靭帯により関節内のインピンジメント症状を呈した2症例. 肩関節 2010 ; 34 : 955-958.
  125. 河合伸昭, 菅谷啓之, 高橋憲正, 萩原嘉廣, 戸野塚久紘, 立原久義, 寺林伸夫, 森石丈二. 肩甲下筋腱完全断裂に対する重層固定法を用いた鏡視下手術成績. 肩関節 2010 ; 34 : 853-856.
  126. 杉森一仁, 菅谷啓之, 高橋憲正, 萩原嘉廣, 河合伸昭, 森石丈二. 腱板断裂肩における小円筋のMRI評価. 肩関節 2010 ; 34 : 757-760.
  127. 安井謙二, 加藤義治, 神戸克明, 菅谷啓之. 関節鏡を用いた可能性肩関節炎の治療経験. 肩関節 2010 ; 34 : 561-64.
  128. 高橋憲正, 菅谷啓之, 萩原嘉廣, 河合伸昭, 柴原 基, 戸野塚久紘, 立原久義, 寺林伸夫, 森石丈二. 肩石灰性腱板炎手術症例の臨床的特徴. 肩関節 2010 ; 34 : 499-502.
  129. 菅谷啓之, 萩原嘉廣, 高橋憲正, 河合伸昭, 戸野塚久紘, 柴原 基, 立原久義, 寺林伸夫, 森石丈二. 一次修復不能な腱板広範囲断裂に対するテフロンフェルトを用いた鏡視下パッチ法の中長期成績. 肩関節 2010 ; 34 : 459-462.
  130. 萩原嘉廣, 菅谷啓之, 高橋憲正, 河合伸昭, 戸野塚久紘, 柴原 基, 立原久義, 寺林伸夫, 森石丈二. 反復性肩関節前方不安定症における modified apprehension test と病態との関係. 肩関節 2010 ; 34 : 359-362.
  131. 高橋憲正, 菅谷啓之, 戸野塚久紘, 萩原嘉廣, 柴原 基, 河合伸昭, 立原久義, 寺林伸夫, 森石丈二. 肩関節前方不安定症に対する新しいレントゲン撮影法(新法)の有用性. 肩関節 2010 ; 34 : 321-324.
  132. 戸野塚久紘, 菅谷啓之, 高橋憲正, 萩原嘉廣, 河合伸昭, 柴原 基, 立原久義, 寺林伸夫, 森石丈二. 肩関節新撮影法の開発～単純 X 線による関節窩前方部の骨形態評価～. 肩関節 2010 ; 34 : 317-320.

133. 加藤敦夫, 山口久美子, 秋田恵一, 望月智之, 菅谷啓之. 小円筋の形態とその支配神経の解剖学的解析 肩関節 2010 ; 34 : 301-304.
134. 河合伸昭, 菅谷啓之, 高橋憲正. 輪状靭帯に起因した弾撥肘に対する鏡視下手術による治療経験. 臨床スポーツ医学 2010 ; 27 : 787-793.
135. 中山貴文, 高村 隆, 鈴木 智, 高橋憲正, 菅谷啓之. ラグビー選手に対する鏡視下バンカート修復術後のスポーツ復帰について. 千葉スポーツ医学研究会誌 2010 ; 7 : 17-22.
136. 菅谷啓之. 上肢のスポーツ障害に対するリハビリテーション. 関節外科 2010 ; 29 (4月増刊号) : 148-158.
137. 菅谷啓之. 整形外科手術私のポイント: 鏡視下腱板修復術のコツ. 整形災害外科 2009 ; 52 : 1538-1539.
138. 菅谷啓之. スポーツ障害肩の診断と治療方針の選択. Monthly Book Medical Rehabilitation 2009 ; 110 : 53-59.
139. 山上直樹, 菅谷啓之, 高橋憲正, 萩原嘉廣, 小瀬靖郎, 杉森一仁, 河合伸昭, 森石丈二. 投球側の反復性肩関節不安定症に対する鏡視下手術の治療成績. 肩関節 2009 ; 33 : 649-653.
140. 松木圭介, 菅谷啓之, 森石丈二, 落合信靖. T2 マッピングによる腱板筋の脂肪浸潤の定量的評価. 肩関節 2009 ; 33 : 693-696.
141. 菅谷啓之. 肩関節不安定症の診断と治療. OS NOW Instruction 2009 ; 11 : 73-86.
142. 山口久美子, 加藤敦夫, 秋田恵一, 望月智之, 新井隆三, 菅谷啓之. 関節上腕靭帯の組織学的検討. 肩関節 2009 ; 33 : 253-256.
143. 加藤敦夫, 山口久美子, 秋田恵一, 望月智之, 菅谷啓之. 棘下筋の形態とその支配神経の解剖学的解析. 肩関節 2009 ; 33 : 257-259.
144. 桐村憲吾, 金子和夫, 最上敦彦, 内藤聖人, 菅谷啓之. 肩峰下滑液包に対する注射手技(前外側アプローチ). 肩関節 2009 ; 33 : 265-269.
145. 高橋憲正, 菅谷啓之, 山上直樹, 萩原嘉廣, 小瀬靖郎, 杉森一仁, 河合伸昭, 森石丈二. 外傷性肩関節前方不安定症の直視下手術後再発例に対する鏡視下手術の検討. 肩関節 2009 ; 33 : 281-284.
146. 菅谷啓之. 外傷性・反復性肩関節前方不安定症における3DCT 所見. Monthly Book Orthopaedics 2009;22(8):9-16.
147. 黒川純, 高村 隆, 菅谷啓之. 鏡視下腱板修復術の後療法. Monthly Book Orthopaedics 2008 ; 21(11) : 31-38.
148. 室井聖史, 岡田亨, 菅谷啓之. 競技特性からみた肘関節離断性骨軟骨炎～野球と器械体操競技の病巣部位の比較～. 専門リハビリ 2008 ; 7 : 46-50.
149. 新井隆三, 森石丈二, 菅谷啓之, 望月智之, 山口久美子, 秋田恵一. 上腕二頭筋長頭腱の安定化機構. 肩関節 2008 ; 32 : 549-552.

150. 吉村英哉, 望月智之, 新井隆三, 菅谷啓之, 二村昭元, 宗田 大, 秋田恵一. 棘上筋から棘下筋に向かう表層繊維の研究. 肩関節 2008 ; 32 : 501-503.
151. 望月智之, 山口久美子, 秋田恵一, 菅谷啓之, 中川照彦, 宗田 大. 棘下筋腱の肉眼解剖および組織学的研究－delamination の発生部位の検討－. 肩関節 2008 ; 32 : 497-500.
152. 望月智之, 山口久美子, 秋田恵一, 新井隆三, 菅谷啓之, 吉村英哉. 棘上筋と棘下筋の上腕骨停止部について－組織学的検討－. 肩関節 2008 ; 32 : 493-49.
153. 西須孝, 亀ヶ谷真琴, 見目智紀, 菅谷啓之, 森石丈二. 上位型分娩麻痺に対して鏡視下肩甲下筋腱切離術を試みた2症例. 肩関節 2008 ; 32 : 449-452.
154. 松木 圭介, 菅谷 啓之, 森石 丈二. 矢状面における腱板断裂サイズと棘下筋萎縮の関係. 肩関節 2008 ; 32 : 413-416.
155. 二村昭元, 宗田 大, 望月 智之, 山口 久美子, 秋田 恵一, 菅谷 啓之, 中川 照彦. 棘上筋と棘下筋の上腕骨停止部について－Footprint の計測－. 肩関節 2008 ; 32 : 229-232.
156. 山上直樹, 菅谷啓之. 投球側における外傷性肩関節前方不安定症－鏡視下手術とスポーツ復帰－. 臨床スポーツ医学 2008 ; 25 : 751-756.
157. 菅谷啓之, 萩原嘉廣. ラグビーおよびアメリカンフットボール選手における外傷性肩関節前方不安定症－鏡視下手術とスポーツ復帰－. 臨床スポーツ医学 2008 ; 25 : 731-737.
158. 菅谷啓之. 投球肩：どういふときにどういふ手術が必要か？コーチング・クリニック 2008 ; 22 巻, 第9号 : 55-58.
159. 菅谷啓之. I. 肩関節 反復性肩関節前方不安定症に対する関節鏡. 関節外科 2008 ; 27 巻4月増刊号 : 33-38.
160. 菅谷啓之. 肩関節鏡視下手術の現状と未来. 日整会誌 2007 ; 81 : 1051-1060.
161. 菅谷啓之. 肩関節の視診・触診－肩スポーツ障害の診察法. Monthly Book Orthopaedics 2007 ; 20 : 7-14.
162. 中根康博, 菅谷啓之, 前田和彦, 森石丈二, 高 在完, 古山和恵. ビーチチェアポジションにおける肩関節鏡視下手術の安全性. 整形外科 2007 ; 58 : 1433-1437.
163. 菅谷啓之. 特集：腱板損傷の最小侵襲手術. Editorial, 編集企画に当たって. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2007 ; 44 : 1.
164. 前田和彦, 菅谷啓之. 肩甲下筋腱断裂に対する鏡視下手術. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2007 ; 44 : 59-66.
165. 藤田耕司, 西須孝, 菅谷啓之, 森石丈二. 外傷性肩関節前方不安定症の病態－関節包断裂と HAGL 病変－. 肩関節 2007 ; 31 : 485-488.
166. 望月智之, 宗田大, 菅谷啓之, 前田和彦, 秋田恵一, 松木圭介, 中川照彦. 腱板の層構造は棘上筋の付着形態が影響を及ぼす－烏口上腕靭帯から見た検討－. 肩関節 2007 ; 31 : 461-464.
167. 吉村英哉, 望月智之, 宗田大, 菅谷啓之, 前田和彦, 秋田恵一, 松木圭介, 中川照彦. 小胸筋の停止についての解剖学的研究. 肩関節 2007 ; 31 : 217-219.

168. 松木圭介, 菅谷啓之, 前田和彦, 森石丈二, 望月智之, 秋田恵一. 棘下筋こそが腱板断裂において最も重要な断裂腱である. 肩関節 2007 ; 31 : 213-215.
169. 前田和彦, 菅谷啓之, 新井隆三, 森石丈二, 望月智之, 吉村英哉, 松木圭介, 秋田恵一. 棘上筋停止部に関する解剖学的検討. 肩関節 2007 ; 31 : 209-211.
170. 新井隆三, 菅谷啓之, 前田和彦, 森石丈二, 望月智之, 松木圭介, 秋田恵一. 肩甲下筋腱停止部の上腕二頭筋長頭腱安定化機構. 肩関節 2007 ; 31 : 205-207.
171. 菅谷啓之. 種目別に見たスポーツ障害 III. バレーボール 3. 肩関節障害. 整形外科 2007;58(8), 7月増刊号:991-998.
172. 菅谷啓之. 投球障害肩に対する腱板断裂手術. Monthly Book Orthopaedics 2007 ; 20 (7) : 52-58.
173. 菅谷啓之. トップレベルの野球選手における肩関節の外傷・障害 臨床スポーツ医学 2007 ; 24 (6) : 643-652.
174. 菅谷啓之. 肩関節鏡視下手術－反復性脱臼と腱板断裂を中心に－. 整形・災害外科 2007 ; 50 卷 4 月臨時増刊号 : 487-495.
175. 菅谷啓之. Net Surgery 5 肩関節鏡視下腱板修復術. 関節外科 2007 ; 26(5) : 479-491.
176. 菅谷啓之. 特集肩関節 1. 肩関節のみでなく, 全身をみる－内部構造が破綻する前に, 機能訓練を. 月刊トレーニング・ジャーナル 2006 ; 325(11) : 12-15.
177. 菅谷啓之. 骨性バンカート損傷を伴った初回・反復性肩関節前方不安定症に対する鏡視下手術. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル 2006 ; 40 : 7-11.
178. 菅谷啓之. 書評 Burkhardt's View of the Shoulder: A Cowboy's Guide to Advanced Shoulder Arthroscopy. 関節外科 2006 ; 25 : 1055.
179. 菅谷啓之. 肩スポーツ障害に対する機能診断と鏡視下手術－投球障害を中心に－. 骨・関節・靭帯 2006 ; 19 : 847-856.
180. 菅谷啓之, 前田和彦, 加藤敦夫, 森石丈二. 重層固定法による鏡視下腱板修復術の成績－術後腱板修復状態と術後2年の臨床成績－. 肩関節 2006 ; 30(3) : 489-493.
181. 菅谷啓之. 腱板断裂に対する鏡視下手術. 整形外科 2006 ; 57, 7月増刊号 : 884-889.
182. 菅谷啓之. 腱板断裂に対する鏡視下腱板修復術. C L I N I C I A N 2006 ; vol.53 (549) : 83-88.
183. 菅谷啓之. 関節鏡視下手術: 押さえておくべきポイントとコツ<sup>®</sup> 腱板関節面断裂に対する鏡視下修復術 (trans-tendon 法). 関節外科 2006 ; 25(6) : 587-593.
184. 前田和彦, 菅谷啓之. 肘関節鏡視下手術の基本. Monthly Book Orthopaedics 2006 ; 19 : 73-81.
185. 菅谷啓之. 画像診断ワークショップーPitfall Q&A と Normal Variant. 関節外科 2006 ; 25(4) : 447-451.
186. 菅谷啓之. 4章 治療 手術療法 関節鏡手術. 高岸憲二(編) 整形外科学大系 1 3 : 肩関節・肩甲帯, 第1版, 中山書店, 東京, 2006 : 102-116.

187. 菅谷啓之. スポーツ選手の肩関節不安定症の診断と治療. In 福林 徹. 実践にすぐ役立つアスレティックリハビリテーションマニュアル(第1版). 全日本病院出版会, 東京, 2006 : 26-30.
188. 菅谷啓之, 前田和彦, 森石丈二. 重層固定法による鏡視下腱板修復術の術後 Cuff Integrity と臨床成績. 日整会誌, 2006 ; 80 : 203-208.
189. 菅谷啓之 (訳). 15 章, 肩. In 守屋秀繁 (監訳). スポーツリハビリテーション 最新の理論と実践 (初版). 西村書店, 東京, 2006 : 193-212.
190. 菅谷啓之. 肩関節機能のみかたと鏡視下手術の実際. 整形外科, 2006 ; 57(3) : 323-332.
191. 菅谷啓之. 肩関節脱臼 (反復性脱臼). 月刊トレーニング・ジャーナル, 2006 ; 317(3) : 48-49.
192. 高村 隆, 菅谷啓之. 肩関節不安定症における術後筋力トレーニング. 臨床スポーツ医学, 2006 ; 23(2) : 121-127.
193. 菅谷啓之, 肩関節脱臼 (初回脱臼). 月刊トレーニング・ジャーナル, 2006 ; 316(2) : 80-81.
194. 菅谷啓之. 肩関節における鏡視下手術. リウマチ科, 2005 : 34 (4) : 385-392.
195. 菅谷啓之. 肩関節不安定症における portal placement. 新 OS Now, 2005 ; 28 : 15-19.
196. 菅谷啓之. 外傷性肩関節不安定症に対する手術治療. 臨床スポーツ医学, 2005 ; 22(11) : 1391-1398.
197. 菅谷啓之. 反復性肩関節脱臼・亜脱臼に対する鏡視下手術. 関節外科, 2005 ; 24 (10 月増刊号) : 48-55.
198. 望月智之, 菅谷啓之, 前田和彦, 森石丈二, 土屋明弘, 宗田 大. 肩関節術後の外旋制限に対して鏡視下癒着剥離術が有効であった 2 例. 肩関節, 2005 ; 29(3) : 743-746.
199. 松木圭介, 村田 亮, 落合信靖, 荻野修平, 菅谷啓之, 森石丈二. 腱板完全断裂における delamination の頻度と特徴. 肩関節, 2005 ; 29(3) : 603-606.
200. 藤田耕司, 岡崎壮之, 菅谷啓之. 関節包断裂を認めた外傷性肩関節前方不安定症の病態. 肩関節, 2005 ; 29(3) : 511-514.
201. 前田和彦, 菅谷啓之, 望月智之, 森石丈二. 反復性肩関節前方不安定症における Inverted-pear Glenoid - その出現頻度と随伴骨片の有無 -. 肩関節, 2005 ; 29(3) : 507-510.
202. 高橋憲正, 菅谷啓之, 松木圭介, 土屋明弘, 守屋秀繁. 反復性肩関節前方不安定症に対する鏡視下手術 - 補強手術としての鏡視下腱板疎部縫合術の有用性 -. 関節鏡, 2005 ; 30 : 57-60.
203. 菅谷啓之, 高村 隆. 鏡視下手術における肩関節術後理学療法の進めかた. 整形災害外科, 2005 ; 48 : 573-583.
204. 菅谷啓之. 肩関節障害の診断と治療. リウマチ科, 2005 ; 33(4) : 385-393.
205. 菅谷啓之. 反復性肩関節前方不安定症における 3 DCT の有用性. 関節外科, 2005 ; 24(5) : 588-594.

206. 菅谷啓之. スポーツ選手の腱板断裂に対する鏡視下手術と RF. 臨床スポーツ医学, 2005; 22(5): 527-532.
207. 菅谷啓之. 肩関節鏡視下手術に必要な portal placement. 整形外科最小侵襲手術ジャーナル, 2005; 35: 51-56.
208. 菅谷啓之, 近良明, 高橋憲正, 松木圭介, 土屋明弘. 鏡視下腱板修復術における術後 MRI 所見と臨床成績—単層固定法と重層固定法の比較—. 肩関節 28(2): 287-290, 2004.
209. 菅谷啓之. 肩腱板損傷における鏡視下手術の実際. MB Orthop. 17(13): 9-17, 2004.
210. 菅谷啓之, 松木圭介. 関節鏡視下関節包全周切離術. MB Orthop. 17(7): 55-60, 2004.
211. 菅谷啓之, 松木圭介. 反復性肩関節前方不安定症における 3 DCT による関節窩形態の評価と治療法の選択. 関節外科; 23(6): 788-794, 2004.
212. 菅谷啓之. 『理学療法士にできる守備範囲を知ろう: 理学療法士の役割と医師の役割』. 考える理学療法: 評価から治療手技の選択, 丸山仁司編, 文光堂: 54-59, 2004.
213. 土屋明弘, 菅谷啓之. 種目別スポーツ整形外科 11 ゴルフ. 関節外科; 23(3): 130-133, 2004.
214. 菅谷啓之. 巻頭言『“体”の叫びを知り, 真実を探求する』. 徒手の理学療法; 3 (1): 1, 2003.
215. 菅谷啓之. 反復性肩関節前方(亜)脱臼に対する関節鏡視下手術 Suture anchor 法. 新 OS Now; 20: 11-18, 2003.
216. 松木圭介, 菅谷啓之, 近 良明, 土屋明弘. 反復性肩関節前方不安定症における骨形態と joint laxity. 肩関節 2003; 27: 343-347.
217. 菅谷啓之, 近良明, 土屋明弘, 松木圭介, 藤田耕司. 単層固定法による鏡視下腱板修復術の成績—術後 1 年の MRI 所見と手術成績—. 肩関節; 27(2): 233-236, 2003.
218. 菅谷啓之, 近良明, 土屋明弘. 関節鏡視下骨性バンカート修復術—術後 1 年以上経過例の手術成績—. 関節鏡; 28(2): 211-215, 2003.
219. 菅谷啓之. スポーツ選手における腱板損傷の診断と治療, 関節外科; 22(9): 104-110, 2003.
220. 菅谷啓之. ゴルフにおけるスポーツ障害. 日医雑誌; 130(3): 428, 2003.
221. 菅谷啓之. スポーツ障害肩の診断と治療. 徒手の理学療法; 1 (2): 61-67, 2003.
222. 菅谷啓之, 近 良明, 松木圭介, 土屋明弘. Lateral acromial portal を用いた剥離型肩関節上方関節唇損傷に対する鏡視下手術. 関節鏡; 27(2): 163-167, 2002.
223. 菅谷啓之, 近 良明. 関節鏡視下腱板修復術. 関節外科; 21(11): 37(1341)-44, 2002.
224. 松木圭介, 菅谷啓之, 森石丈二, 石毛徳之, 土屋明弘, 岡崎壮之. Sure anchor を用いた鏡視下 Bankart 法術後再(亜)脱臼例の検討—初回手術時の病態と再手術所見よりみたその対策—. 肩関節; 26(2): 351-355, 2002.
225. 菅谷啓之. 反復性肩関節前方不安定症に対する鏡視下 suture anchor 法. 整形災害外科; 45(1): 49-55, 2002.

226. 菅谷啓之. 外傷性肩関節前方不安定症に対する鏡視下手術－スーチャーアンカー法の理念とその手術成績－. 関節外科；20(10)：20-28, 2001.
227. 菅谷啓之, 森石丈二他. 外傷性肩関節前方不安定症における関節窩骨性形態の評価－3 DCT を用いた検討－. 肩関節；25(3)：453-457, 2001.
228. 菅谷啓之, 土屋明弘, 園田昌毅他. 新鮮関節窩脱臼骨折に対する鏡視下手術－スーチャーアンカーを用いた骨片修復術－. 関節鏡；26(1)：67-72, 2001.
229. 菅谷啓之. 関節鏡視下腱板修復術. 新 OS Now；10：16-21, 2001.
230. 畠中拓哉, 菅谷啓之. ゴルファーのリハビリテーションテクニック－ゴルファーの腰痛に対する関節運動学的アプローチの治療効果. 臨床スポーツ医学；17(12)：1439-1448, 2000.
231. 菅谷啓之, 土屋明弘, 岡崎壮之他. 投球障害肩に対する鏡視下手術. 関節鏡；25(1)：17-21, 2000.
232. 菅谷啓之, 石毛徳之, 藤田耕司他. 反復性肩関節前方不安定症に対する鏡視下手術－成績向上と適応拡大のための試み－. 肩関節；24(3)：417-420, 2000.
233. 菅谷啓之, 石毛徳之, 藤田耕司他. 関節鏡視下腱板修復術の経験－その有用性と問題点について－. 臨床整形外科；35(4)：295-300, 2000.
234. 菅谷啓之. ゴルフによる傷害. 日医雑誌；121(10)：sp18-20, 1999.
235. 菅谷啓之. 『肩の鏡視診断』整形外科鏡視下手術, 守屋秀繁監修, 診断と治療社：157-163, 1999.
236. 菅谷啓之, 土屋明弘, 園田昌毅他. 関節鏡を利用した腱板修復術. 別冊整形外科；36：94-97, 1999.
237. 菅谷啓之, 土屋明弘, 岡崎壮之他. 腱板修復術における関節鏡の有用性. 肩関節；23(2)：203-207, 1999.
238. 菅谷啓之. 肩関節の CT・MRI 像. 整形外科看護；4(1)：4-8, 1999.
239. 菅谷啓之, 守屋秀繁, 土屋明弘他. ゴルフスイングにおける脊柱の三次元動作解析. 日本臨床バイオメカニクス学会誌；17：157-161, 1996.
240. 菅谷啓之, 守屋秀繁, 土屋明弘他. プロゴルフ選手のスポーツ障害について－アンケート調査結果より－. 臨床スポーツ医学；12(8)：928-934, 1995.
241. 菅谷啓之, 守屋秀繁. テーピング：その適応と限界, 安全性など. 骨・関節・靭帯；8(2)：121-123, 1995.
242. 菅谷啓之, 守屋秀繁, 土屋明弘他. プロゴルフ選手の腰痛について. 整形外科；46(2)：184, 1995.
243. 菅谷啓之. 93PGA アンケート調査報告 Japan PGA リポート. 41；40-46：1994.
244. 菅谷啓之, 宮坂斉, 川口善治. 椎椎間板ヘルニアに対する microsurgical discectomy の臨床的検討. 臨床整形外科；27(6)：707-712, 1992.